



Monthly Wacco

発行 ● 狛江市市民協働課
〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5
☎ 3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp
編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0012 狛江市中和泉 3-2-16
プランツベルツ 201
☎ 3430-6617 FAX3430-6743
Email=wacco@k-press.net
Homepage=http://www.k-press.net/

2007 平成19年

1



市民の要望にそって造られた前原公園(とんぼ池公園)も市民団体が管理している



西野川

野川が与えた恵みと労苦

四季折々の多くの草木が楽しめる野川緑地公園

1 野川地域センター

野川地域センター(1-6-9)は、人口が増え地域コミュニティ形成が課題となった時期に、地域の文化活動や住民交流の拠点となる初の地域センターとして昭和51(1976)年に開館した。施設の内容は地元の町会などと協議、公民館と図書館の機能も備えた。管理は地域住民が行うことになり、団体や市民が運営のための協議会を組織し、その後の地域センターの手本となった。



野川地域センター

平成10年に現在の建物(鉄筋コンクリート造り2階建て、のべ床面積1014㎡)に建て替えられ、ホール、図書室、陶芸ガマを備えた創作室、大小会議室、料理実習室、音楽室、舞台にもなる板の間付き



人気の高い親子体操

平成10年に現在の建物(鉄筋コンクリート造り2階建て、のべ床面積1014㎡)に建て替えられ、ホール、図書室、陶芸ガマを備えた創作室、大小会議室、料理実習室、音楽室、舞台にもなる板の間付き

昭和52(1977)年の住居表示によってそれまでの上小足立と上覚東と一緒にできた西野川は、かつて東寄りを野川が流れる農村地帯だった。

岸にしの竹が生い茂る野川の流りに沿って水田が連なり、その他の地域には畑と集落が広がっていた。畑ではウリ類が多く作られた。タケノコの産地で竹林も多く、養豚や養鶏も盛んだった。川に

近い水田は「どぶつ田」と呼ぶほど深く、耕作に苦勞したという。このため、昭和30年代半ばからは水田を手放す人が増え、神代団地の建設などをきっかけに野川沿いは急速に宅地化が進んだ。

水害に悩まされた野川も改修によって緑道になり、住民は水の悩みから解放され、住宅地のなかに田園地帯のころをしのばせる畑や屋敷林が点在している。

2 西野川せせらぎ

八幡神社東側にある西野川せせらぎ(2-33)は長さ約100mの人工の流れで、かつて野川から水を引いた用水堀のおもかげを伝えるため造られた。せせらぎの終点近くの「小金橋南」交差点の角には、文化13



西野川せせらぎ

(1816)年に立てられた石橋「養塔」(写真左)がある。高さ105cmの石柱の表面には「天下太平」「国家安全」などの文字とともに村の内外の多くの人名が刻まれている。

3 野川緑地公園

1丁目と2丁目の境にある緑の帯、野川緑地公園は、昭和50(1975)年に公園として整備されるまで、旧野川が流れていた。

野川は国分寺市の源流から世田谷区玉川で多摩川に合流するまで約20kmの市街地を流れる一級河川。現在は調布市、世田谷区との境を流れているが、改修工事が行われるまでは、狛江市を縦断するように流れていた。

古くから水田などの農業用に利用され、魚もよく採れたが、流域の都市化によって水があふれて被害が度々出るようになり、狛江市では昭和41年に台風4号によって1690世帯、農地41haが

被害を受けるという大災害が起きた。

昭和35年ごろに沿岸の自治体が野川改修期成同盟を結成、都に働きかけて流路を変更する改修工事が行われ、昭和44年から現在の野川を流れるようになった。旧野川は地下に下水道を敷設、地上部が緑の道として整備された。

小金橋から市役所付近まで約2km、幅平均約10mの緑の道には約4,500本のさまざまな樹木が植えられ、花壇や広場、ベンチなどが各所に置かれている。



のびのび公園の清掃をする市民

4 小足立のびのび公園

雑木林や草原など自然のおもかげを残す小足立のびのび公園(4-14)は、周辺の住民の要望によって平成9年暮れにオープンした。

市との協定に基づいて、開設時から住民約50人で結成した「のびのび会」(小笠原定憲代表)が管理しており、こととして10年を迎える。

毎週日曜日にゴミ拾いや清掃をするほか、花壇の植栽、草刈りなど、季節に応じて手入れをしている。元は畑だったが、公園を造る前に市と市民とが話し合って自然公園として整備された。面積1,885㎡の公園は最初、草も生えていなかったが、現在では、木々



● 西野川の地域データ ●

18年1月1日現在

面積 0.558km² (市域の9.65%) (市内5番目)
世帯数 2,990 (市内8番目)
人口 6,849人 (市内6番目)
男3,415人、女3,434人
人口密度 12,274人 (市内9番目)
●世帯あたりの人口が2.29と駒井町と並んで1位を占めているのが特色。



5 こまえ正吉苑

こまえ正吉苑(2-27-23)は、市内2番目の高齢者福祉施設として平成14(2002)年にオープンした。鉄筋コンクリート造り3階建て、のべ床面積3531㎡で、社会福祉法人正吉福祉会が特別養護老人ホーム、高齢者タイサービス在宅介護支援などの事業を行っている。

同苑では、シーツ交換、洗濯物たたみ、配膳、話し相手など日常援助、入所・タイサービス利用者のクラブなどの趣味を支援するボランティア活動、歌、太鼓などの慰問活動も多い。

苑内に飾られている花は、東京農業大学で園芸療法を学んだ大嶋紀子さん(西野川)が、ボラン

ティアとして3年前から入居利用者を中心に月2回教えているフラワーアレンジメントの作品。月1回、パンジーの寄せ植え、ラティツシユの植え付け、イチゴ苗の育成などにも取り組んでいる。大嶋さんによると、園芸療法は作業療法のひとつで、「花が咲く、実が採れるなど少し先に希望を持てる」前向きな思考が生まれ、表情がふさふさした人が笑顔を増やせるなど精神面での効果のほか、植物の世話をしたい気持ちから、動きの衰えた手や足が動くなどの効果があるという。

同苑では常時ボランティアの受け付けを行っている。☎ 03(5438)0555担当森本。



こまえ正吉苑